

● ● ● ● 様

● ● ● ● 様邸
気密測定報告書
(中間時)



株式会社サーモアドベンチャー



測定結果

Dolphin 気密性能測定結果

20210511a版

コントローラ測定データ		測定方法		JIS A 2201 送風機による住宅等の気密性能試験方法 による。			
測定日	2023年2月7日	データ保存時刻	11時17分	ソフトVer.	4.1.7		
自動/手動	手動	圧力センサ	SENSIRION	計測平均時間[s]	10		
移動平均時間[s]	30	ゼロ点平均時間[s]	20	試験方法	減圧法		
整流筒内径[mm]	94.0	通気量補正係数	1.050				
測定データ※1	測定圧力差	測定通気量	外気温度	室内温度	計測時刻		
ファン出力 [%]	ΔP_m [Pa]	Q_m [m ³ /h]	t_o [°C]	t_i [°C]	筒内風速 V_d [m/s]		
1	84.9	54.2	634.2	14.0	12.4	11:11	25.4
2	70.9	41.7	541.5	14.0	12.4	11:13	21.7
3	59.9	31.4	463.2	14.1	12.4	11:15	18.5
4	45.4	20.3	352.3	14.1	12.4	11:16	14.1
5	36.4	11.5	250.8	14.1	12.4	11:17	10.0
6							
7							
8							
9							
10							
11							
総相当隙間面積 αA [cm ²]		159.1		測定時床面積 A [m ²]		127.69	
隙間特性値 n [-]		1.67		測定時相当隙間面積 C 値 [cm ² /m ²]		1.25	

※1. 測定データは気密測定器Dolphiniによる測定時のデータをUSBメモリに書き出したもの（データ保護者：製造元EOM(株)）

気密性能 測定結果		試験方法		1		{1=減圧法, 2=加圧法}	
測定概要		測定対象		所在地			
測定時期		中間時		建設会社			
天候		晴れ		風向		北東	
気圧[hPa]		1013.25		室温 t_i [°C]		12.4	
床面積 S [m ²]		127.69		平均天井高 H [m]		2.60	
気圧[hPa]		1013.25		風速 [m/s]		2.0m	
気圧[hPa]		1013.25		外気温 t_o [°C]		14.1	
床面積 S [m ²]		127.69		室容積 $V=S \times H$ [m ³]		331.99	
データ補正※2		差圧-風量グラフ					
差圧 ΔP [Pa]	隙間通気量 Q [m ³ /h]						
1 54.2	637.9						
2 41.7	544.7						
3 31.4	465.9						
4 20.3	354.4						
5 11.5	252.3						
6 0.0	0.0						
7 0.0	0.0						
8 0.0	0.0						
9 0.0	0.0						
10 0.0	0.0						
11 0.0	0.0						
決定係数 R^2 (≥ 0.98)	温度差補正係数 K						
1.000	1.006						
空気密度 ρ [kg/m ³]	係数 b						
1.230	0.696						
隙間特性※2		気密性能※2					
総相当隙間面積： $\alpha A = Q_{9.8} \times b$ [cm ²]		159.6		相当隙間面積： C 値 = $\alpha A / S$ [cm ² /m ²]		1.25	
隙間特性値： n ($1 \leq n \leq 2$)		1.67		気密性能ラベリング※3		☆☆	
1 Pa時 通気率： a [m ³ /h·Pa ^(1/n)]		58.4		(参考)50Pa時漏気回数：ACH [回/h]		1.8	
9.8Pa時 通気量： $Q_{9.8}$ [m ³ /h]		229.4		(参考)50Pa時通気量： Q_{50Pa} [m ³ /h]		609.7	
試験条件		・換気設備：目張り					
		・換気口：目張り					
		・その他：					
特記事項		・測定器設置場所：2F洋間3 縦滑り出し窓					
測定事業所・登録番号 (株)サーモアドベンチャー		NO.2035		測定者・登録番号		高橋義則 No08123-24	

※2. JIS A 2201およびIBEC気密測定技能者講習テキスト「住宅の気密性能試験方法」をもとに、測定データから補正・計算した(データ保護者：EOM(株))

※3. 性能ラベリングは製造元EOM(株)によるもの。(参考：住宅省エネ基準(平成11年)気密住宅 温暖地5以下、寒冷地2以下)

☆☆☆☆：C値0.2以下(超高気密++)、☆☆☆☆：0.5以下(超高気密+)、☆☆☆：1.0以下(超高気密)、☆☆：2以下(高気密)、☆：5以下(気密住宅)

JIS規程で換算した床面積

建物全体の隙間面積

C値

測定結果は、

**C値 = 1.25cm²/m²でした。
(建物全体の隙間面積は、159.6cm²)**

1回目の測定では、建物全体の隙間面積が、265.5cm²で、C値（相当隙間面積）は、2.08cm²/m²でした。

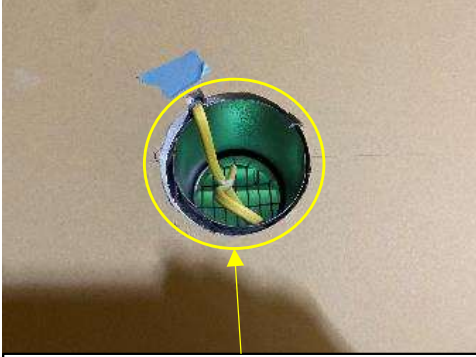
その後、分電盤配線回りの隙間、太陽光のパワーコンディショナー回りの隙間、キッチンの排気ダクト回りの隙間、などを目張りして測定を行った結果、全体の隙間面積は、265.5cm²→159.6cm²へ約100cm²減少し、C値も2.08cm²/m²→1.25cm²/m²へ向上しました。このC値は、一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構が提唱する高気密住宅に相当します。

今回、目張りを行った是正可能な隙間や配線とりだし穴、ダクト回りの隙間等は、完成時には是正が出来ませんので、今後の工事で是正を行うことをお勧めします。

今後、仕上げ工程で、石膏ボード、玄関ドア枠下からの漏気は、減少していきますが、新たに開ける開口（スイッチ・コンセント、リモコン、エアコンスリーブ管回り等）から、漏気が増える可能性がございますので、配線の貫通穴、換気扇のダクト回りの穴の処理に十分な注意を払って工事を進めることをお勧めします。

次ページに気が付いた是正箇所や注意点を記載させて頂きましたので、今後の工事にご参照ください。

参照資料



給気口ダクトと石膏ボードの隙間を是正することをお勧めします



エアコン配管回りの隙間を是正することをお勧めします



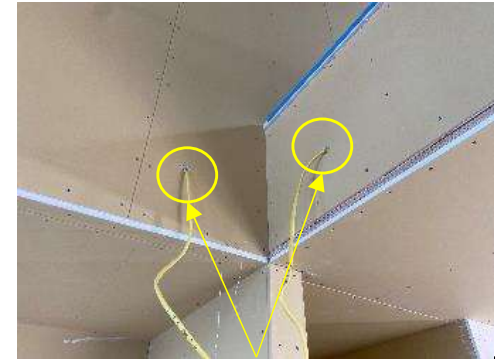
分電盤配線の取り出しの隙間を是正することをお勧めします。



排水管周りの隙間を是正することをお勧めします。



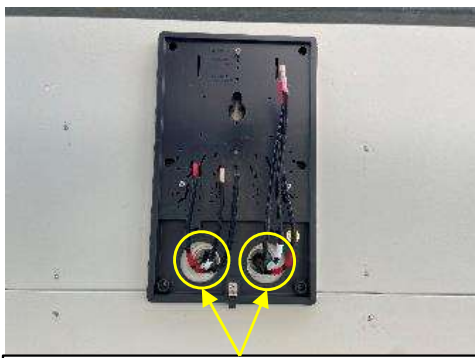
キッチンの排気ダクト回りの隙間を是正することをお勧めします。



照明器具を取り付ける前に配線取り出し穴を塞ぐことをお勧めします。



吹付断熱材とボードのジョイントから漏気がありましたので、是正することをお勧めします。



情報配線や電気配線後にCD管をパテ埋めをして漏気を防ぐことをお勧めします



玄関ドア枠の下から、多くの漏気がありましたが、仕上げ工程で無くなりますので、問題ありません。